

コンセプト・基本方針について（まとめ）

1 前回話し合った内容の文章化～コンセプト・基本方針（案）～

（1）子どもたちの命を守るとともに、健康的な生活空間の実現と多様性に対応した『安全・安心で思いやりのある学校』

- ①不審者の侵入防止や犯罪防止の観点を意識した防犯性の高い学校とします。
- ②災害時に子どもたちを危険から守りきる学校とします。
- ③死角の除去や車両の安全な動線計画など、事故防止に配慮した学校とします。
- ④子どもたちの学習及び生活の場、また教職員の職場として、良好な環境条件を整えた学校とします。
- ⑤多様な子どもたちや特別な支援を要する子どもたちが安全かつ安心して通えるバリアフリーが行き届いた学校とします。

（2）多様な学習内容・学習形態に対応するとともに、明るく楽しい生活の場となる『子どもが主役の学校』

- ①誰もが充実した学校生活を送ることができる合理的配慮が行き届いた学校とします。
- ②多様な学習形態に対応でき、のびのびと学ぶことができる多目的な教室空間とします。
- ③多様な学習内容に対応し、子どもたちの主体的な学び・活動を支える充実した ICT 環境とします。
- ④子どもたちが視覚的にも心理的にも落ち着いて学習活動に取り組める空間を作ります。
- ⑤学年などの区切りを越えて、年齢の異なる子どもたちが日常的に交流できる空間をつくれます。

（3）地域に愛される学校を実現し、地域とともに子どもを育て成長を支える『地域とともにある学校』

- ①さまざまな利用者に配慮した利用しやすい学校とします。
- ②学校開放や地域のイベント、生涯学習の場として、地域住民が有効活用できる学校とします。
- ③子どもたちが郷土について学び愛着と誇りをもてるよう、地域の歴史や文化、自然にふれあえる学校とします。
- ④避難所としての役割を想定し、地域住民を守り、災害時に必要な機能を備えた学校とします。
- ⑤地域住民の生活圏の一部を構成する公共施設として、近隣住民の生活及び周辺の景観との調和等に配慮した施設計画とします。

2 左のコンセプト・基本方針（案）の解説

町内唯一となる小学校の新校舎建設にあたり、当委員会がこの3つのコンセプトと全15の基本方針を考え出す際に、委員全員に共通した大きな軸は「子どもたちを中心に考える」ということでした。

大人や町の都合を押し付けるのではなく、「子どもたちのためにこういう学校にしたい」「子どもたちのためにこうあるべきだ」という委員一人一人の強い思いがこのコンセプトと基本方針に込められています。

コンセプトの（1）は、既存校舎の老朽化や時代の変化に合わなくなってきた部分の課題をしっかりと捉えたものであることに加え、安全な学校・安心して通える（通わせることができる）学校こそが子どもたちが学び生活する場としての土台であるという思いから、第一に挙げております。

基本方針には、児童の身体に直接的にかかわることのほかに、夏季の酷暑や感染症の流行などへの対策も含めた健康面での安全、そしてそれらの上に成り立つ安心という意味や、多様化する子どもたちが不安なく学び生活できる環境づくりという意味も含め、全5項目を掲げました。

コンセプトの（2）は、『子どもが主役』という言葉に、授業などの学習の場とそれ以外の生活の場の両面において、子どもたちが活動に意欲的に取り組み、その成果を一人一人が個性豊かに表現すること、そしてそれを共有し互いに認めあうこと、という意味が込められており、それは学校への理想像であり子どもたちへの願いでもあります。

そのための環境づくりとして、設備機能や施設整備上の工夫により合理的配慮の行き届いた施設とし、障害の有無によらず、子どもたち一人一人の学校生活上の困難を可能な限り取り除くことが基本となります。

そのうえで、特に学習活動は学校生活の中心となるものであることから、あらゆる学習形態・内容に対応できる作りをするとともに、学習活動に集中できるよう落ち着いた空間とすることが重要です。

これらの観点をもとに、ここでも全5項目の基本方針を掲げております。

最後に、コンセプトの（3）は、町に1つとなる小学校が、地域に愛され親しまれるものであるように、そして保護者と学校と地域住民が互いに子どもたちの成長を支えあうものであるように、という願いが込められています。

現在でも、地域見守り隊や自治会の活動などで学校と地域が連携することはありますが、今以上に連携し地域との交流を図ることは、子どもたちと地域社会の接点を増やすことにつながり、それは町の歴史や文化を学ぶこと、郷土愛を育むことへの出発点になります。

そのためにも、地域の方々に、学校開放や生涯学習、イベントなどで施設を有効活用してもらうことは、学校の身近さにつながるものと考えます。

また、統合校舎等の建設場所について、現在の野辺地小学校の敷地に決定しましたが、隣接する愛宕公園という自然豊かで歴史ある場所も、子どもたちの郷土愛を育む教材の1つとなるはずです。

そのほか、学校はその規模や機能から避難所となることが多いものです。そうした観点においても災害に強い学校を作る必要があります。

これらの観点に基づいて、『地域とともにある学校』として、5つの基本方針を掲げました。

これら3つのコンセプトと全15の基本方針は、大人たちが子どもたちとする約束であると思っています。『こんな学校をつくるよ!』という約束を、新しい学校に入る子どもたちだけでなく、今後生まれてくる子どもたちともするために、委員全員で考え抜いてできたものです。

その約束をしっかりと守るためにも、今後の統合校舎等の基本設計・実施設計にあたり、これらのコンセプトと基本方針を大きな柱として進めてまいります。

（１）子どもたちの命を守るとともに、健康的な生活空間の実現と多様性に対応した『安全・安心で思いやりのある学校』 …安全・安心、先生の目が届きやすい

①不審者の侵入防止や犯罪防止の観点を意識した防犯性の高い学校とします。

<Keyword>
防犯、不審者対策 など

②災害時に子どもを危険から守りきる学校とします。

<Keyword>
雪対策、安全 など

③死角の除去や車両の安全な動線計画など、事故防止に配慮した学校とします。

<Keyword>
学校前（敷地内）の交通安全、車の通りが安全 など

④子どもたちの学習及び生活の場、また教職員の職場として、良好な環境条件を整えた学校とします。

<Keyword>
明るい空間、元気に活動できる、外で安全に遊べる など

⑤多様な子どもたちや特別な支援を要する子どもたちが安全かつ安心して通えるバリアフリーが行き届いた学校とします。

<Keyword>
思いやり、けがをしない（手摺、段差、死角） など

（２）多様な学習内容・学習形態に対応するとともに、明るく楽しい生活の場となる『子どもが主役の学校』 …楽しいを伸ばせる、明るく楽しい

①誰もが充実した学校生活を送ることができる合理的配慮が行き届いた学校とします。

<Keyword>
のんびり休める空間、子どもが学校に行きたくなる、不登校の子も安心できるように、心満たされる、思いやり、自己肯定感を高める など

②多様な学習形態に対応でき、のびのびと学ぶことができる多目的な教室空間とします。

<Keyword>
いろいろな学習ができる、楽しい授業、創造的 など

③多様な学習内容に対応し、子どもたちの主体的な学び・活動を支える充実した ICT 環境とします。

<Keyword>
積極的に学べる、ICT、PC、将来を見据えた など

④子どもたちが視覚的にも心理的にも落ち着いて学習活動に取り組める空間をつくりまします。

<Keyword>
刺激の少ない、集中して学習できる など

⑤学年などの区切りを越えて、年齢の異なる子どもたちが日常的に交流できる空間をつくりまします。

<Keyword>
友達と語り合える空間、児童の交流、学年問わず交流できる、学年問わずオープンに、コミュニケーションのとれる、尊重しあえる など

（３）地域に愛される学校を実現し、地域とともに子どもを育て成長を支える『地域とともにある学校』 …町の人とのふれあい、地域の人目が届きやすい、地域と共に子どもを育てる

①さまざまな利用者に配慮した利用しやすい学校とします。

<Keyword>
地域に開かれた、地域の人利用しやすい、地域の人来やすい、世代間交流、学童保育の充実 など

②学校開放や地域のイベント、生涯学習の場として、地域住民が有効活用できる学校とします。

<Keyword>
地域の人にも使えるような、地域の中心・文化的 など

③子どもたちが郷土について学び愛着と誇りをもてるよう、地域の歴史や文化、自然にふれあえる学校とします。

<Keyword>
自然と共に生活する、野辺地らしい自然、緑が感じられる、自然の中で楽しめる、野辺地に戻ってきたいと思える、野辺地愛 など

④避難所としての役割を想定し、地域住民を守り、災害時に必要な機能を備えた学校とします。

<Keyword>
防災、地域の人にも使用できる場所 など

⑤地域住民の生活圏の一部を構成する公共施設として、近隣住民の生活及び周辺の景観との調和等に配慮した施設計画とします。

<Keyword>
景色がいい など

3 基本構想

3-1 コンセプト・基本方針

子どもたちの命を守るとともに、健康的な生活空間の実現と多様性に対応した『安全・安心で思いやりのある学校』

- ①不審者の侵入防止や犯罪防止の観点を意識した**防犯性の高い学校**とします。
- ②災害時に子どもたちを**危険から守りきる学校**とします。
- ③死角の除去や車両の安全な動線計画など、**事故防止に配慮した学校**とします。
- ④子どもたちの学習及び生活の場、また教職員の職場として、**良好な環境条件を整えた学校**とします。
- ⑤多様な子どもたちや特別な支援を要する子どもたちが安全かつ安心して通える**バリアフリーが行き届いた学校**とします。

多様な学習内容・学習形態に対応するとともに、明るく楽しい生活の場となる『子どもが主役の学校』

- ①誰もが充実した学校生活を送ることができる**合理的配慮が行き届いた学校**とします。
- ②多様な学習形態に対応でき、のびのびと学ぶことができる**多目的な教室空間**とします。
- ③多様な学習内容に対応し、子どもたちの主体的な学び・活動を支える**充実した ICT 環境**とします。
- ④子どもたちが視覚的にも心理的にも落ち着いて**学習活動に取り組める空間**をつくります。
- ⑤学年などの区切りを越えて、年齢の異なる子どもたちが**日常的に交流できる空間**をつくります。

地域に愛される学校を実現し、地域とともに子どもを育て成長を支える『地域とともにある学校』

- ①さまざまな利用者に配慮した**利用しやすい学校**とします。
- ②学校開放や地域のイベント、生涯学習の場として、**地域住民が有効活用できる学校**とします。
- ③子どもたちが郷土について学び愛着と誇りをもてるよう、**地域の歴史や文化、自然にふれあえる学校**とします。
- ④避難所としての役割を想定し、地域住民を守り、**災害時に必要な機能を備えた学校**とします。
- ⑤地域住民の生活圏の一部を構成する公共施設として、**近隣住民の生活及び周辺の景観との調和等に配慮した施設計画**とします。

コンセプト・基本方針の解説

町内唯一となる小学校の新校舎建設にあたり、当委員会がこの3つのコンセプトと全15の基本方針を考え出す際に、委員全員に共通した大きな軸は「子どもたちを中心に考える」ということでした。

大人や町の都合を押し付けるのではなく、「子どもたちのためにこういう学校にしたい」「子どもたちのためにこうあるべきだ」という委員一人一人の強い思いがこのコンセプトと基本方針に込められています。

コンセプトの『安全・安心で思いやりのある学校』は、既存校舎の老朽化や時代の変化に合わなくなってきた部分の課題をしっかりと捉えたものであることに加え、安全な学校・安心して通える（通わせることができる）学校こそが子どもたちが学び生活する場としての土台であるという思いの下で、第一に挙げております。

基本方針には、児童の身体に直接的にかかわることのほかに、夏季の酷暑や感染症の流行などへの対策も含めた健康面での安全、そしてそれらの上に成り立つ安心という意味や、多様化する子どもたちが不安なく学び生活できる環境づくりという意味も含め、全5項目を掲げました。

コンセプトの『子どもが主役の学校』は、『子どもが主役』という言葉に、授業などの学習の場とそれ以外の生活の場の両面において、子どもたちが活動に意欲的に取り組み、その成果を一人一人が個性豊かに表現すること、そしてそれを共有し互いに認めあうこと、という意味が込められており、それは学校への理想像であり子どもたちへの願いでもあります。

そのための環境づくりとして、設備機能や施設整備上の工夫により合理的配慮の行き届いた施設とし、障害の有無によらず、子どもたち一人一人の学校生活上の困難を可能な限り取り除くことが基本となります。

そのうえで、特に学習活動は学校生活の中心となるものであることから、あらゆる学習形態・内容に対応できる作りにするとともに、学習活動に集中できるよう落ち着いた空間とすることが重要です。

これらの観点をもとに、ここでも全5項目の基本方針を掲げております。

最後に、コンセプトの『地域とともにある学校』は、町に1つとなる小学校が、地域に愛され親しまれるものであるように、そして保護者と学校と地域住民が互いに子どもたちの成長を支えあうものであるように、という願いが込められています。

現在でも、地域見守り隊や自治会の活動などで学校と地域が連携することはありますが、今以上に連携し地域との交流を図ることは、子どもたちと地域社会の接点を増やすことにつながり、それは町の歴史や文化を学ぶこと、郷土愛を育むことへの出発点になります。

そのためにも、地域の方々に、学校開放や生涯学習、イベントなどで施設を有効活用してもらうことは、学校の身近さにつながるものと考えます。

また、統合校舎等の建設場所について、現在の野辺地小学校の敷地に決定しましたが、隣接する愛宕公園という自然豊かで歴史ある場所も、子どもたちの郷土愛を育む教材の1つとなるはずです。

そのほか、学校はその規模や機能から避難所となることが多いものです。そうした観点においても災害に強い学校を作る必要があります。

これらの観点に基づいて、『地域とともにある学校』として、5つの基本方針を掲げました。

これら3つのコンセプトと全15の基本方針は、大人たちが子どもたちとする約束であると思っています。『こんな学校をつくるよ!』という約束を、新しい学校に入る子どもたちだけでなく、今後生まれてくる子どもたちともするために、委員全員で考え抜いてできたものです。

その約束をしっかりと守るためにも、今後の統合校舎等の基本設計・実施設計にあたり、これらのコンセプトと基本方針を大きな柱として進めてまいります。